

- 5. 第十六軍ノ第五十六師團ノ一部ハ「バラオ」ニ集結シアリ
- 6. 南方軍直轄タル第十八師團ノ一部ハ廣東ニ、第二十一師團ハ徐州ニ集結シアリ
- 7. 南方軍總司令官ハ臺北ニ在リ
- 8. 南海支隊ハ小笠原島ニ集結シアリ

第二篇 戦争第一期ニ於ケル統帥 (自昭和一七六二二一
至昭和一七六二二二)

第一章 南方第一段作戦ニ於ケル統帥 (自昭和一七六二二一
至昭和一七六二二二)

第一節 開戦決定ニ應スル指導

昭和十六年十二月一日廟議開戦ニ決スルヤ大本營ハ開戦第一日ヲ十二月八日ト決定セリ其ノ理由トスル所ハ(出所一起案擔任者記憶)

海軍作戦ノ見地ヨリ日米海軍勢力比率ノ關係上翌十七年三月以降

ニ在リテハ成算十分ナラザルモノアルコト

2 北方ニ於テ蘇國ノ參戰スルコトアルヘキヲ考慮シ滿洲ニ於ケル作戰恰適期タル十七年春季以前ニ主要第一段作戰（約五ヶ月ヲ要スルモノト豫定セリ）ノ大部ヲ終了スル爲關戰ノ遲延ヲ不利トセルコト

3 關戰ノ遲延ハ南方各地ノ敵側兵備ヲ著シク増加セシムル不利アルコト

4 一月、二月ハ「マレ山」ノ氣象上陸作戦ニ適セスト考ヘラレタルコト

5 主トシテ月齡、潮ノ關係上八日前後ヲ有利トセルコト等是ナリ

右關戰日時決定ノ理由ニ明ナル如ク帝國トシテハ日米交渉妥結ノ公算相當濃厚ナラサル限リ十二月以降交渉繼續ヲ試ミルコト能ハサル進退兩難ノ時期ナリシナリ

斯クテ大本營ハ十二月一日左ノ要旨ノ開戦ニ關スル命令ヲ下達セリ

南方軍總司令官ニ對スル命令ノ要旨（出所一起草擔任者手記）

(イ) 帝國ハ米國、英國及蘭國ニ對シ開戦スルニ決ス

(ロ) 南方軍總司令官ハ十二月八日進攻（進入）作戰ヲ開始スヘシ

(ハ) 南方軍總司令官ハ十二月八日以前左記事項ヲ行フコトヲ得

(1) 敵ノ眞面目ナル先制攻撃ヲ受ケタル場合ハ海軍ト協同シ適時進攻（進入）作戰ヲ開始ス

(2) 英軍泰國內ニ侵入シタル場合ハ海軍ト協同シ適時泰國內ニ進入ス

(3) 敵航空機ノ我重要基地、船團等ニ對シ反復偵察ヲ行フ如キ場合ハ之ヲ擊墜ス

2. 支那派遣軍總司令官ニ對スル命令ノ要旨（出所一ノニ同シ）

(1) 支那派遣軍總司令官ハ海軍ト協同シ第二十三軍司令官ノ指揮スル第三十八師團ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ香港ヲ攻略スヘシ

旧の要旨
に趣あり
史の指し
合

作戰開始ハ南方軍ノ馬來方面ニ對スル上陸又ハ空襲ヲ確認シタル直後トス

香港ヲ攻略セハ同地附近ヲ確保シ軍政ヲ實施スヘシ

(四) 支那派遣軍總司令官ハ爾今左記事項ヲ行フコトヲ得

(1) 作戰開始ニ先タチ敵ノ眞面目ナル先制攻撃ヲ受ケタル場合ハ機宜之ヲ邀撃ス

(2) 敵航空機ガ我軍事行動等ニ對シ反復偵察ヲ行フ如キ場合ハ之ヲ撃墜ス

(六) 支那派遣軍總司令官ハ天津英國租界及上海共同租界其ノ他ノ在支敵國權益ヲ處理スヘシ

所要ニ應シ武力ヲ行使スルコトヲ得

3. 南海支隊長ニ對シテハ海軍ト協同シ十二月八日以降速カニ瓦無島ヲ攻略シ攻略終了ニ伴ヒ同地ニ兵力ヲ集結シテ「ラバウル」ニ向フ爾後ノ作戰ヲ準備スヘキ旨命セラル

三十二月三日大本營ハ南方軍ニ對シ「マレー」方面ニ於ケル第二十五軍ノ上陸作戰ハ甲案ニ據ルヘク指導セリ是レ馬來東北岸ニ對スル上陸作戰ハ南部佛印ノ遠隔セル我が基地ヨリスル基地航空ノ援護ニ依ラサルベカラサル關係上「マレー」方面ニ於ケル敵航空兵力ノ増加顯著ナル場合ニ於テハ先ツ航空撃滅戰ヲ以テ敵ヲ制シ其ノ成果ヲ俟チテ先遣兵團ノ上陸ヲ行フヲ要シ（乙案）敵航空兵力大ナラサル場合ニ於テハ航空撃滅戰ト先遣兵團ノ上陸トヲ同時ニ行フコトノ可能ナルヘク（甲案）何レノ案ニ據ルヘキヤハ開戦直前當時ノ情況ニ基キ大本營之ヲ指示スル如ク内示シアリシヲ以テナリ（出所一記憶月日ハ手記）

三十二月三日大本營ハ關東軍司令官及支那派遣軍總司令官ニ命令ヲ與フ此ノ命令ニ於テ關東軍ニ對シテハ大本營ノ企圖スル所ハ南方要域攻略作戰間蘇國ニ對シ極力戰爭ノ發生ヲ防止スルニ在ルヲ以テ關東軍ハ國境紛爭ノ處理ニ方リテハ事態ヲ局地ニ限定スルニ勉ムヘキコ

トヲ命シ支那派遣軍總司令官ニ對シテハ大本營ノ企圖スル所ハ南方
要域攻略作戰間支那事變ヲ迅速ニ處理スルニ在ルヲ以テ支那派遣軍
ハ概ネ現態勢ヲ以テ特ニ對敵封鎖ヲ強化シ敵艦戰企圖ノ破潰滅亡ニ
任スヘキヲ命セリ（出所「手記」）

第二節 開戦ヨリ昭和十七年三月ニ至ル間ノ指導

一 本期間ニ於ケル全般ノ狀況（出所「南方軍作戰記錄」）

十二月八日開戦ト共ニ泰國ニ於テハ第十五軍總司令官ニ於テハ第九日ニハ盤谷ニ進駐ヲ了シ馬來ニ於テハ第二十五軍八日「シンゴ
ラ」ニ「コタバル」ニ上陸シテ前進ヲ開始シ十日ニハ「マフイ」沖海
戰ニ於テ英國艦隊ニ大打撃ヲ與ヘ十二月末ニハ「イボ」ニ「クワン
タン」ヲ占領シ十七年一月十四、五日頃「シヨホト」ニ突入シマ
ラツカレテ攻略シ同三十一日ニハ「モ」ニ「モ」ヲ占領シ續イテ二
月三日「シンガポール」ニ上陸シ同十日迄ヲ占領セリ

比島方面ニ於テハ十二月八日陸海軍部隊ヲ以テスル航空艦隊ニ成
功シ十日ニハ第十四軍ノ先遣隊「ルソン」北部ニ上陸セルヲ始メト
シ同月中旬一部ヲ以テ「ミンダナオ」島ニ軍進カテ以テ同月下旬「リ
ンガエン」「ラモン」ニ上陸ヲ實施シ十七年一月三日ハ「マニラ」
市ヲ攻略セリ

第二十三軍ハ十二月十二日九龍市ヲ占領シテ同月十四日ヨリ香港ノ
總攻撃ヲ開始シ同二十五日之ヲ攻略セリ

「ボルネオ」方面ニ於テハ川口支隊ハ十二月十六日英領「ボルネオ」
上陸ニ成功シ又第十六軍ノ坂口支隊ハ一月十一日「タラカン」島ヲ
一月二十四日「バリツクババン」ヲ占領又第十六軍ノ一部ハ同三十
一日ニハ「アンボン」ヲ攻略二月九日、十日頃「マカツサル」「バ
ンジエルマシ」亦我ガ掌握中ニ歸セリ

爪哇、「スマトラ」方面ニ於テハ二月四日ニハ「タヤウ」沖海戦ニ
於テ英蘭艦隊ニ大打撃ヲ與ヘ第三十八師團ハ二月十四日ニ於ケル望

村岡印砂
等
59

挺部隊ノ降下ト協同シテ同十七日「バレンバン」ヲ占領シ二月下旬
「スラバヤ」沖海戦ニ依リ更ニ敵艦隊ヲ撃破シ「ジャワ」ニ對スル
攻撃ノ態勢ヲ整ヌルヲ得タリ十二月十一日瓦無島ヲ占領同二十三日
「ウエーキー」島ヲ占領二月二十日ニハ東方支隊「チモール」島上陸
ニ成功セリ

此ノ間十二月八日ニハ日佛印軍事協定成立シ同十一日ニハ日獨伊三
國軍事協定調印ヲ了シ同二十一日ニハ日泰攻守同盟ヲ締結セリ

ニ、南方作戦ノ繰上ケニ關スル指導（出所「記憶竝ニ手記」）

十二月下旬頃南方軍總司令官ハ第二艦隊司令長官ト協定ノ上爪哇作
戦ヲ豫定計畫（三月中旬ノ予定）ヨリ約一ヶ月繰上クル目的ヲ以テ
之ニ關聯スル「スマトラ」「ボルネオ」等ノ作戦亦夫々若干日繰上
ゲテ實施セントスル修正計畫ニ關シ大本營ニ意見具申スル所アリ
當時ニ於ケル大本營ノ情況判斷トシテハ今ヤ帝國ハ南西太平洋方面
ニ於テ明ニ主動權ヲ把握シ得タルヲ以テ敵ニ戰勢挽回ノ機ヲ與ヘサ

ル爲手段ヲ盡シテ速ニ豫定領域ノ攻略ヲ完了スルヲ有利トシ斯クス
 ルコトハ兼ネテ明春以後願慮ヲ要スヘキ滿洲方面ニ於ケル蘇軍ノ動
 向ニ對處スル所以ナリトスルニ在リシヲ以テ直ニ右意見具申ヲ是認
 シ之ニ應スル如ク所要ノ處置ヲナセリ

即チ香港作戰ニ任シタル第三十八師團ハ十二月二十五日同島ヲ攻略
 セルヲ以テ一月四日第十六軍ニ編入シ直ニ損耗ノ補充ヲ行ヒタル後
 主力ヲ以テ「バンガ」「バレンバン」方面ニ、一部ヲ以テ東方支隊
 トナリテ「アンボン」「クイバン」方面ニ行動スヘク又比律賓方面
 ノ作戰ニ任シタル第四十八師團ハ同方面ノ作戰終了シアラザリシニ
 拘ラズ一月十四日第十六軍ニ編入シテ集結ヲ行ヒ内地ニ待機中ナリ
 シ第十六軍司令官及第二師團ハ一月中下旬逐次内地ヲ出發シ船艦
 送護衛ニ任スル航空部隊ノ運用、後方兵站準備ノ推進等万般ニ亙リ
 之ニ應スル如ク劃策實行セラレタリ

三 緬甸作戰ノ指導（出所「記憶竝ニ手記」）

緬甸ハ南方攻略範域ノ北翼ノ據點トシテ又對支封鎖ノ意義ニ於テ極
メテ重要ナル價值ヲ有スルヲ以テ大本營ハ開戰當初ヨリ之カ速力ナ
ル處理ヲ熱望シタル所ナリシカ陸軍全般兵力ノ關係上止ムヲ得サル
處置トシテ作戰概ネ一段落シ狀況之ヲ許スニ至ラハ緬甸處理ノ爲ノ
作戰ヲ實施スル如ク計畫セルモノナリシカ今ヤ全般作戰豫期ノ如ク
進捗シツツアルヲ以テ一月二十二日南方軍總司令官ニ海軍ト協同シ
テ緬甸ノ要域ヲ攻略スヘキ大本營命令發令セラレタリ
開戰前緬甸ノ敵兵力ハ陸軍約三万五千、航空兵力約七十機ヲ基幹ト
スルモノト判斷シアリシガ爾後逐次相當ノ兵力ヲ增加シ緬支國境方
面及緬甸南部ニ合計支那軍約十萬師ヲ算スルモノノ如シ之ニ對シ緬
甸作戰ニ使用スヘキ我が兵力ハ第三十三師團、第五十五師團ヲ基幹
トスル第十五軍及所要ノ航空兵力ニシテ北部緬甸方面作戰ノ爲ニハ
狀況特ニ支那軍ノ動靜ニ依リ更ニ第五十六師團等ノ増加ヲ豫定セリ
大本營ガ緬甸攻略ニ關スル命令ト共ニ南方軍ニ指示セル緬甸作戰要

領ノ要旨左ノ如シ

緬甸作戰要領

第一 作戰目的

緬甸作戰自的ハ緬甸ニ於ケル英國軍ヲ擊破シテ緬甸ノ要域ヲ占領確保シ併セテ對支封鎖ヲ強化スルニ在リ

第二 作戰方針

第十五軍ハ成ルヘク速カニ「ムールメン」附近「サルウイシ」河ノ線ニ進出シテ作戰準備ヲ整ヘタル後主力ヲ以テ「ムールメン」―「ベグ」―道ニ沿フ地區ヨリ速カニ中部緬甸ノ要域ヲ占領ス

四 比島作戰ノ指導（出所ノ記憶）

二月上旬頃ニ於テハ南方各方面ノ作戰ハ豫期ノ如ク順調ニ進捗中ニシテ新嘉坡ノ防務甚ク備ニアリ然ルニ比島ニ於テハ米軍主力「マニラ」ヲ拋棄シタル後「バタン」―「コレギドール」ニ於テ眞面目ナル抵抗

六九

ヲ企圖シアルモノノ如ク當初第十四軍ハ第十六師團及獨立混成第六十五旅團ヲ以テ攻撃ヲ實施セシモ敵ハ「ジャングル」内ニ巧ニ縱深陣地ヲ構成シテ軌勦ナル防戦ヲ續ケ攻撃意ノ如ク進展セス此ニ於テ大本營ハ敵ノ兵力地形等ニ鑑ミ第十四軍ノ現在戦力ヲ以テスル迅速ナル攻略ハ困難ナリト判断シタルニ依リ南方軍ヲ指導シテ先ツ群島内ノ機定作戦ヲ成ルヘク速カニ實施セシムルト共ニ「バタン」ニ對スル優勢ナル兵力ヲ以テスル強襲ヲ準備セシメ攻撃再興ハ大本營ノ處置スヘキ戦力増強ヲ俟ツテスルコトナセリ而シテ戦力増強ノ處置トシテハ二月ヨリ三月ニ亘リ上海ニ集結シアリシ第四師團ヲ又二月下旬北支ニ在リシ第二十一師團ノ歩兵一聯隊、山砲一箇大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ夫々第十四軍司令官ノ隷下ニ入ラシメテ比島ニ到着スル如ク處置スル外「バタン」「コレキドール」附近ノ敵陣地ノ状態ニ對應スル如ク兵力大ナル攻城重砲其ノ他砲兵部隊ヲ主トスル軍直轄部隊ヲ配屬及彈藥、作戰資材ノ追送ニ依ル物的戦力ノ増強等

ニ關シ努力スル所アリタリ
五其ノ他ノ指導（出所一筆記）

二月上旬南海支隊長ニ對シ海軍ト協同シテ英領「ニユーギニア」及「ピスマルク」群島ノ要地ヲ攻略スヘク南方軍總司令官ニ對シテハ海軍ト協同シテ適時「アングマン」群島方面ノ要地ヲ攻略スヘキコト及海軍ト協同シテ自滿ノ爲葡萄牙領「チモール」ニ對シ作戰スルコトヲ得ル旨ノ夫々大本營命令ヲ發令セリ

第三節 昭和十七年三月ヨリ六月ニ至ル間ノ指導

其ノ一 全般ノ狀況及大本營ノ作戰思想

一 本期間ニ於ケル戰況（出所一南方軍作戰記錄並ニ記憶）

緬甸方面ニ於テハ第十五軍ハ三月八日「ラングー」ヲ攻略シテ引續キ中部緬甸ニ向フ作戰ヲ進メ南緬方面ニ於テハ泰緬連接鐵道建設ニ著手シ四月二十九日ニハ緬支國境「ラシオ」ヲ占領五月一日ニハ

要衝「マンダレイ」ヲ攻略同上旬「バイモ」雲南龍陵ヲ攻略シ又「
アキヤブ」飛行場ヲ占領セリ

爪哇ヲ於テハ三月一日「バタヴィヤ」沖海戦ニ敵殘存艦隊ヲ撃破シ
同日第十六軍ハ爪哇上陸ニ成功シ三月九日和蘭軍ノ降伏ニ依リ此ノ
方面ノ作戦一段落ヲ告ケタリ

比島ニ於テハ四月三日ヨリ「バタン」半島ニ對スル總攻撃ヲ開始シ
九日迄ニ全半島ヲ攻略シ爾後第十四軍ハ「コレギドール」要塞ニ對
スル攻撃準備ヲ整フルト共ニ廣汎ナル地域ニ於ケル掃定作戦ヲ實施
中ナリシガ五月七日「コレギドール」ヲ攻略シ同日全比島ノ米比軍
降伏セリ

海軍ハ四月初旬「コロンボ」ヲ攻撃シ「セイロン」ヲ空襲シテ印度
洋ヲ制セシガ五月七日珊瑚海ニ於テ彼我ノ海戦ヲ惹起シテ五ニ勝敗
アリ六月初旬ニ至リ「アッツ」「キスカ」ハ陸海軍部隊ニ依リ占領
スルコトヲ得タルモ海軍ハ「ミッドウエー」海戦ニ於テ失敗シ遂ニ

七二

作戰目的ヲ達スルコト能ハズ

四月十八日米國艦隊航空部隊内地空襲アリ此ノ種空襲ニ對處スル爲ノ中支方面ノ敵飛行場攻略ヲ目的トスル浙贛作戰ハ六月十日開始セラレタリ

南方軍ヲ以テスル第一段攻略作戰ハ五月ニ於ケル比島攻略ヲ以テ段落ヲ告ケタルヲ以テ六月末第十四軍ヲ大本營直轄トナシ南方軍ハ防衛作戰態勢ニ入レリ

三、五月上旬頃大本營ノ綜合判斷セル敵情ノ概要左ノ如シ（出所―起案擔任者保存書類）

ノ敵ノ兵力判斷

方面	地上兵力	航空兵力	要
米 國	一、八〇〇、〇〇〇 (内整備概成セルモノ) 四三師團	第一線機 三、五〇〇	本年末地上兵力 二〇〇万 第一線機約六〇〇〇機 増加スヘシ
パナマ方面	陸 四五、〇〇〇	四五〇	
エクス、トリ、 シン方面	陸海 八、八〇〇	一、五〇	
ハワイ諸島	陸 三五、〇〇〇	四〇〇	
ミッドウェー	陸海 一、七〇〇	五〇	
サモア	米海 七五〇	二〇	
フィジー	米英 七、五〇〇	二〇	
ニュー カレドニア	米「アール」 三、〇〇〇	一〇	
濠 洲	三五〇、〇〇〇 (一〇師團)	五〇〇	米兵逐次到着中ニシテ其ノ兵力ハ新西 蘭ヲ合セ一、五一二師團ニ達シアリ 西南部「ニューギニア」及北部濠洲ニ ハ有力部隊配屬セラレアリ
新西蘭	七〇、〇〇〇 (三師團)	二五〇	米兵若干到着中
アインランド 北アフリカ	米 一一三師團		
英 本 國	二〇〇〇、〇〇〇 (内整備概成約四五師團)	第一線機 五〇〇〇	本年末ニハ地上兵力七一八師團 第一線機三〇〇〇一三、五〇〇増加スベシ
西 亞	一五〇、〇〇〇 (一〇師團)	三〇〇	
北 阿	三〇〇、〇〇〇 (一六師團)	七〇〇	
西 阿	米兵若干アルカ如シ		
南 阿	八〇、〇〇〇 (五師團)	二〇〇	
マダガスカル	英 一師團		
印 度	内英軍 五〇〇、〇〇〇 印度軍 七師團 三師團	三五〇	
セイロン島	一一三師團		
加 奈 陀	一三〇、〇〇〇 (五師團)	二五〇	

七四

2. 米英戦力増強能力判断

	現	在	將	來
米 國	飛行機月産 約三七〇〇 戦車月産 五〇〇	十八年中期約三二〇〇 十八年 三〇〇〇	人的物的資源ニ依リ兵 力増強ノ度随ル大ナリ	
英 國	飛行機月産 一、三〇〇		兵力ヲ逐次増強シアル モノ的資源上急激ナル 増強困難ナリ	
印 度	一ヶ月一師團ノ編成ニ應 スル能力アリ飛行機生産 ハ組立工場アルニ過キズ			
加 奈 陀	飛行機月産 約 五〇〇			
濠 洲	飛行機月産 約 六〇			

三 大本營陸軍部ノ作戰指導ノ腹案（出所―手記並ニ記憶）

七六

南方第一段作戰概シテ順調ニ進歩シ豫定範域ノ攻略モ近キニ在リト豫想セラル我ガ攻勢作戰ノ終了後ハ總テ東西ヨリスル米英ノ反撃ヲモ豫期セサルベカラサルヲ以テ大本營ハ爾後ノ作戰ニ關シ檢討スル所アリテ三月中旬頃左ノ作戰指導ニ關スル腹案ヲ有セリ

1. 速カニ占領地域ノ戡定ヲ了ヘテ守備態勢ニ轉移スルト共ニ軍政ヲ滲透セシメテ其ノ安定ヲ圖リ長期不敗ノ戰略態勢ヲ確立ス
2. 中部緬甸ノ要域ヲ占領ス此ノ間敵軍特ニ在緬甸重慶軍ノ殲滅ヲ圖ル
3. 初期作戰ニ於テ得タル戰略的優位ヲ擴充シテ長期不敗ノ態勢ヲ整ナルト共ニ米英ヲシテ絶エズ消極防守ノ態勢ニ陥ラシメテ戰爭ノ終末ヲ促進スル爲既占領地域ノ外郭要地ニ對シ所要ノ作戰ヲ遂行ス
4. 國防力ノ彈發性ヲ強化スルト共ニ絛上作戰ニ適應スル如ク適時南

方派遣兵力ヲ整備シ且所要ノ兵備ヲ増強ス

又南方作戰ノ成果ヲ利用シ情勢之ヲ許ス限リ政略ノ併用ニ依リ支

那事變ノ迅速ナル解決ニ努ム

又蘇國ニ對シテハ新ナル事態ノ發生ヲ極力防止スルト共ニ情勢ノ變

化ニ對慮スル爲對蘇警戒戰備ヲ強化ス

右ニ明ナル如ク爾後ハ政略指導ニ於テハ國防彈發力ノ培養ト積極

作戰ニ費スヘキ戦力トノ調整ヲ如何ニスヘキヤノ問題及外郭要地ノ

作戰ノ地域的對稱ヲ何レニ求ムヘキヤハ當時ニ於ケル作戰上最大ノ

命題ナリシナリ

四 五月下旬頃ニ於ケル大本營陸軍部ノ情勢判斷ト之ニ基ク作戰指導ノ

考案（出所一三ニ同シ）

五月下旬頃ニ於ケル南方軍全般ノ情況ハ作戰占領地域治安ノ恢復、

軍政ノ滲透共ニ各方面概テ順調ニ推移シツツアリ戦局ノ現段階ニ於

ケル大本營ノ第一次的企圖ハ速カニ南方ノ防衛態勢ト軍自活ノ途ヲ

確立スルト共ニ練成ノ強化、兵力ノ整理、重要國防資源ノ取得等ニ依リテ國防ノ彈發力ヲ培ヒ自給必勝ノ態勢ヲ確立スルニアリ然レトモ大東亞戰爭ノ目的完遂ノ爲ニハ究極ニ於テ支那及英國ヲ屈シ米ノ戰意ヲ喪失セシムルヲ要シ蘇聯ニ對シ所要ノ對策亦切要ナリ之カ爲ノ施策特ニ作戰ノ順序、時期、方法等ハ國力竝ニ四圍ノ情勢ヲ勘案シテ決定セラルヘク大本營トシテハ情勢即應ノ作戰實施ニ遺憾ナキ如ク準備ヲ進ムルヲ要ス

以上ノ判斷ノ下ニ大本營ハ全軍ニ亘リ兵力運營態勢ヲ整頓シ總戦力竝ニ彈發力ノ向上ヲ圖リ以テ隨時内外情勢ノ變化ニ對應シ得ル如ク軍容刷新ヲ企圖シテ全軍ノ兵力運用ヲ策定セリ即チ南方方面ニ於テハ南方要域ノ安定確保及外郭要地ニ對スル作戰準備ノ爲所要ノ兵力ヲ配置スル外爾余ノ部隊ハ主力ヲ内地ニ一部ヲ濬洲、支那ニ復員又ハ轉用シ支那ニ於テハ各種ノ手段ヲ盡シテ對敵壓迫ヲ繼續シ北方ニ對シテハ依然極力戰爭ノ發生ヲ防止スル方針ノ下萬一ノ場合ニ處シ

得ル如ク必要ナル態勢ヲ整フルコトトセリ
之カ爲處置ノ要領左ノ如シ

南方方面

指揮統帥機關ヲ改編シ占領地軍政施行ノ体系ヲ整備ス又抽出可能
予想兵力タル近衛第二師團、第四師團、第五師團ヲ内地ニ歸還セ
シメ第三十三師團等ヲ支那へ第十六師團等ヲ滿洲へ夫々轉用ス(註
情勢ノ變化ニ依リ爾後轉用ヲ實現シタルへ第四師團及軍直轄部隊
若干ノミ)又第十四軍ヲ大本營直轄トシ南方軍ノ作戰的負擔輕減
ト比島ニ對スル軍政ノ滲透竝ニ指導ヲ徹活ナラシム

支那方面

對重慶壓迫ハ依然之ヲ繼續スルコト極メテ必要ナルヲ以テ第三十
三師團ヲ南方ヨリ支那ニ轉用シ(註一情勢ノ變化ニ依リ實現セズ)
又北支路ニ戰車師團ヲ新設シ且本年特ニ之カ爲支那ニ新設セラレ
タル六箇ノ師團(第五十九、第六十、第六十八乃至第七十一)ヲ

適切ニ運用スル等ノ處置ヲ講ス

尙南方作戰進展ノ現段階ニ於テ之カ戰果ヲ利用シ支那事變處理ヲ促進スル爲政略的施策ト相俟ツテ行フ對支進攻作戰ニ關シテ研究ス

3. 滿洲方面

北方ニ對シテハ努メテ事態ノ平靜ヲ保持スヘキモ萬一ノ場合ニ處シ得ル作戰準備ノ爲指揮統帥機關即チ方面軍司令部、中間軍司令部等ノ新設ヲ精ヒ且戰車師團ヲ新設ス他方滿洲ノ防衛及作戰準備上許シ得ル一部ノ兵力特ニ古年次兵等ヲ復員ス

4. 内地方面

第五十二師團ヲ復員ス（註：情勢ノ變化ニ依リ實現セス）

5. 航空關係

第三航空軍司令部ヲ南方方面ニ新設シ約五飛行團ヲ基幹トスル航空關係諸部隊ヲ統率セシメ印度及支那ニ對スル進攻作戰並ニ「空」

「ジャワ」等ノ要地防衛ニ當ラシム
支那ニハ南方ノ航空軍司令部新設後一飛行師團司令部及所要ノ部
隊ヲ轉用ス

又北方ノ戰備強化ト航空軍備擴充ノ爲航空兵團司令官ノ下ニ飛行
師團二箇ヲ隷屬セシメ之ニ伴フ編組ノ變更ヲ行ヒ又南方飛行部隊
若干ヲ滿洲ニ轉用ス

五 外郭要地ニ對スル作戰（出所ノ記憶）

大本營ノ企圖スル外郭要地ニ對スル作戰トハ南方第一段作戰ノ予定
領域ノ攻略一段落後更ニ其ノ外郭ニ於ケル戰略要點ヲ占領又ハ制壓
シ必要ニ應ジ之ヲ我方防衛團ノ戰略的前進障地タラシムルト共ニ敵
ノ反攻據點ノ構成ヲ妨害シ又ハ外郭ニ於ケル敵ノ交通ヲ遮斷スル等
ニ依リ我方全般の防衛態勢ヲ強化シ狀況之ヲ要スル場合ニ於テハ攻
勢ノ據點トスルヲ以テ目的トセリ當時本作戰ノ作戰目標トシテ檢討
ヲ經タル地點ハ「アリュイシヤン」「フィジー」「サモア」「ニユ

「カレドニヤ」東部「ニーギニヤ」「ヨコス」印度東部「コロシボ」
「セイロン」(「コロシボ」「セイロン」ハ制壓)等ニシテ實際作
戦ヲ實施セルハ「アリュイシヤン」「ミツドウエー」東部「ニユー
ギニヤ」「コロシボ」「セイロン」等ナリ

八二

其ノ二 支那ニ於ケル進攻作戰ニ關スル大本營ノ企圖

(出所―石割事務官ノ手記竝起案擔任者記憶)

四月上旬大本營ハ今後機會ヲ求メテ重慶方面ニ對スル大進攻作戰ノ企圖アルコトヲ支那派遣軍總司令官ニ傳達シテ之カ研究ヲ促進スヘキコトヲ要望セリ當時右ト共ニ支那事變處理ニ關シ大本營ノ腹案トシテ内示セル事項概要左ノ如シ

一 方針

全般ノ情勢特ニ對蘇情勢之ヲ許ス場合ニ於テハ大東亞戰爭ノ成果ヲ利用シ斷乎トシテ支那事變處理ニ邁進シ速カニ之カ解決ヲ圖ル爲一層積極的施策ヲ講ス然レトモ情勢之ヲ許サザル場合ニ於テハ概ネ現態勢ヲ繼續スルト共ニ緬甸方面ヨリスル壓迫ト相俟ツテ重慶政權ノ屈服ヲ期ス

二 要領

1 現下支那事變處理ノ主眼ハ敵抗戰力ノ破摧、占領地内民心ノ把握

竝治安ノ徹底的肅正ニカヲ用ヒ更ニ政略指導、經濟壓迫等ト相俟
ツテ遂ニ敵抗戰意思ヲ挫折セシムルニ在リテ「緬甸ルート」遮斷
後ニ在リテハ特ニ敵骨幹兵團擊碎ノ意義ヲ重視ス

②全般ノ情勢上事變ノ即決處理ヲ企圖スル場合ノ施策左ノ如シ

イ 作戰要領

他方面ヨリ若干兵團ヲ支那ニ轉用シ重慶方面ニ對スル大規模ナ
ル作戰ヲ行フ

作戰目的ハ敵抗戰力ノ破摧ニ在ルモ其ノ主眼ヲ要地占據ニ依ル

重慶側ノ經濟的崩壞ニ置クヘキヤ又ハ敵抗戰力ノ骨幹タル中央

軍ノ擊滅ニ置クヘキヤハ尙研究ヲ要ス

ロ 作戰時期

滇緬「ルート」遮斷ノ效果ヲ全支ニ普及滲透シ南方戰果ノ

支那ニ及ホス影響最大ナル時期ヲ可トシ又南方作戰一段落ニ依

リ兵力ニ餘裕ヲ得且北方情勢ニ相當ノ安全性アル時期ナルヲ要

シ早クモ本秋以降トナルヘシ

長期戦施策トシテハ占領地域内部ニ對シテハ治安確保、經濟建設ノ強化ニ努力スルト共ニ占領地域外ニ對シテハ封鎖、遮斷ヲ徹底シ政略ト相俟テ重慶政權ノ衰亡ヲ策ス而シテ治安確保ノ爲ニ八清郷工作ノ擴張ニ依ル徹底的治安肅正ヲ圖リ以テ民心把握、民生ノ安定ヲ期ス

其ノ三、「アリエーション」 「ミッドウエー」 作戦及南東方面ノ作戦ニ

關スル指導

「アリエーション」 「ミッドウエー」 作戦ノ経緯ト大本營ノ指導（出所一南東方面作戦記録起案擔任者手記及記憶）

昭和十七年初頭以來濠洲新西蘭方面ニ對スル米國ノ空路、海路ヨリスル交通逐次活潑化シ將來濠洲カ米ノ反攻基地化スヘキ判斷濃厚トナルニ及ヒ大本營海軍部内ニ濠洲攻略ニ關スル意見拾頭セリ之ニ對スル陸軍部ノ意見ハ帝國ノ現在戦力ヨリスレハ濠洲攻略ハ明ニ攻勢ノ

終末ヲ超ユルモノニシテ此ノ如キ放慢ナル作戦ヲ實施スルトホハ濠洲ニ於ケル陸上作戦及補給ノ見地ヨリ成算ナク又本作戦ノ爲新ニ十數個師團ヲ要スヘキ陸軍兵力ニ關シ檢出ノ餘裕ナシトスル反對論ニシテ遂ニ沙汰止ミトナリシ経緯アリ然レトモ「アリキョーシヤン」方面ニ於テ努メテ前方ニ敵ヲ阻止シ米國ノ我本土ニ對スル進攻據點ヲ奪取スルコト及「ライジ」 「サモア」 「ニューカレドニア」等ヲ攻略シテ米國ト濠洲トノ連絡ヲ遮斷シ濠洲ヲ孤立セシメ且濠洲ノ敵基地ヲ海空ヨリ制壓シテ敵ノ反撃ヲ封殺シ又「ポートモレスビー」ヲ占領シテ東部「ヒューギニヤ」方面ノ態勢ヲ強化スルコトハ極メテ有利ナルノミナラス之ニ充ツヘキ陸軍兵力ハ必スシモ大ナラサルヲ以テ之カ實現ニ關スル陸海軍部ノ意見ハ一致シタルニ依リ四月、五月ノ交、之カ計畫立案並準備ニ著手セリ而シテ敵兵力ノ増加ニ先ダチ速カニ先ツ「ポートモレスビー」附近ノ攻略ヲ企圖シ上陸作戦ニ依リ「ポートモレスビー」ノ攻堅ニ任ス

ル南海支隊ノ主力及「ニューギニヤ」東南端附近ノ攻撃ニ任スル海軍陸戰隊ヲ搭載スル輸送船團ヲ掩護スル我艦隊ハ五月四日乃至八日ノ間珊瑚海ニ於テ米艦隊ト交戦シ我ハ敵ニ對シテモ若干ノ損害ヲ與ヘタルモ我艦隊ハ少カラサル損害ヲ蒙リ遂ニ海上ヨリスル「ポートモレスビー」攻撃ノ企圖ハ挫折スルニ至レリ、之ヲ珊瑚海海戦ト稱セラル

前ニ述ウルカ如キ「フィジー」「サモア」「ニューカレドニア」方面ノ作戰實施ニ關シ大本營陸海軍部間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タル後海軍部ハ聯合艦隊司令長官ノ極力主張スル所ナリトシテ「ミッドウエイ」攻略作戰ヲ右ニ予定セル作戰ノ實施以前ニ行ハンコトヲ突如トシテ提案シ來リ「ミッドウエイ」上陸部隊トシテ陸軍ヨリ歩兵一師團聯隊ノ協力ヲ要望セリ陸軍部トシテハ今日ニ至リ計畫ヲ變更シテ「ミッドウエイ」作戰ヲ挿入スルコトハ全ク希望セサル所ナリシカ交渉ノ結果海軍部ノ意見ヲ容レ先ツ第一段ニ「アリュエーション」

「ミッドウエー」ニ對スル作戰ヲ實施シ第二段ニ「サモア」「ウエイ
ジー」「ニューカレドニア」ニ對スル作戰ヲ實施スルコトナリ之
ニ關スル準備ニ著手セリ。斯クテ陸軍トシテハ「アリュエシヤン」
作戰ニハ北海支隊（穗積少佐ノ指揮スル歩兵一箇大隊、工兵一箇中
隊）ヲ「ミッドウエー」作戰ニハ一木支隊（一木大佐ノ指揮スル歩
兵一箇聯隊、工兵一箇中隊、速射砲一箇中隊）ヲ使用スルコトナリ
テ之ヲ海軍部隊ノ指揮下ニ入レ海軍トシテハ聯合艦隊ノ主力ヲ以テ
本作戦ヲ實行スルコトナリ五月五日各左ノ如ク發令セラレタリ

(1) 北海支隊長ニ與フル命令ノ要旨

一 大本營ハ西部「アリュエシヤン」列島ノ攻略ヲ企圖ス

ニ 北海支隊長ハ海軍部隊ニ協力シ「アダック」島「キスカ」島及

「アッツ」島ノ攻略ニ任スヘシ

三 北海支隊長ハ集合點、集合時以後作戰ニ關シ第五艦隊司令長官
ノ指揮ヲ受クヘシ

(2) 一木支隊長ニ與フル命令ノ要旨

一 大本營ハ「ミッドウエー」諸島ノ攻略ヲ企圖ス

一 一木支隊長ハ海軍部隊ニ協力シ「ミッドウエー」諸島ノ攻略ニ任スヘシ

一 一木支隊長ハ集合點集合時以後作戰ニ關シ第二艦隊司令長官ノ指揮ヲ受クヘシ

斯クテ我聯合艦隊ハ六月初頭主力ヲ以テ「ミッドウエー」方面ニ一部ヲ以テ西部「アリエーシヤン」方面ニ行動シ之ヲ攻略作戰ヲ敢行セシカ六月五日「ミッドウエー」方面ニ於テ敗戦ヲ喫シテ上陸作戰ヲ決行スルニ至ラス「アリエーシヤン」方面ニ於テハ七日「キスカ」ニ八日「アッツ」ニ對スル上陸成功セシモ「アダック」ノ上陸ハ之ヲ斷念セリ

「ミッドウエー」海戰ニ於テ聯合艦隊ハ最精銳航空母艦四隻即チ赤城、加賀、蒼龍、飛龍及巡洋艦數隻ト母艦航空部隊ノ主力ヲ失ヒ開

戰以來西部太平洋ヨリ印度洋ヲ壓シ來リシ帝國艦隊ハ此ノ時ヲ以テ
 其ノ實力頓ニ低下シ日米攻守所ヲ異ニセントスルニ至リ今後長期ニ
 亘ル大海洋戰ニ於テ攻防奇正ノ術ヲ發揮スヘキ最重要戦力タル海上
 勢力ニ戰爭間復々醫スヘカラサル大打撃ヲ蒙ルニ至レルモノナリ寔
 ニ千載ノ恨事ト謂ハサルヘカラス
 一木支隊ハ六月十二日ノ命令ニ依リ大宮島到着ノ時ヲ以テ大本營直
 轄トナリ又北海支隊ハ六月二十三日ノ命令ニ依リ六月二十五日ヲ以
 テ大本營直轄トナリ「アダック」島攻略ノ任務ヲ解キ「アツツ」島
 ノ確保ヲ担任セシメラレタリ
 ニ「ニューカレドニヤ」「フィジー」諸島「サモア」諸島作戦及「ボ
 トトモレスピト」作戦（出所一ニ同シ）
 前項ニ述フルカ如キ經緯ヲ經テ「FS」作戦ノ作戦名稱ヲ以テ本作
 戦ノ準備ヲ進メ來リタルカ五月十八日第十七軍ノ戰闘序列ヲ令セザ
 レ同日左ノ要旨ノ命令ヲ下達セリ

1 大本營ハ「ニューカレドニヤ」「フィジー」諸島及「サモア」諸島ノ各要地並「ポートモレスビー」ノ攻略ヲ企圖ス
2 第十七軍司令官ハ海軍ト協同シ右要地ヲ攻略スベシ

「ニューカレドニヤ」「フィジー」諸島及「サモア」諸島作戰ハ此等諸島ノ要地ヲ攻略シテ米濠間ノ連絡遮斷ヲ強化スルト共ニ諸方面ヨリスル敵ノ反撃企圖ヲ封殺スルヲ以テ目的トシ陸軍ハ第十七軍主力（第五師團、第十八師團及第五十五師團ノ各步兵三大隊基幹）海軍ハ第二艦隊、第一航空艦隊ヲ基幹トスル部隊ヲ使用シ「ニューカレドニヤ」攻略部隊ハ六月下旬「ラバウル」ニ「フィジー」「サモア」攻略部隊ハ七月上旬「トラツク」島ニ集合シ聯合艦隊ノ作戰情況ニ依リ七月初旬頃作戰ヲ開始スル如ク豫定セリ

又「ポートモレスビー」作戰ハ之ヲ攻略シテ「ニューギニヤ」島東部方面ニ對スル敵ノ攻勢據點ヲ覆滅スルト共ニ珊瑚海ヲ制壓ス

ルヲ以テ目的トシ陸軍ハ第十七軍ノ一部（第二師團ノ歩兵三大隊
ヲ基幹トスル青葉支隊）海軍ハ第四艦隊及第十一航空艦隊ノ一部
ヲ使用シ攻略部隊ハ六月中旬「パラオ」ニ集合シ「ニューカレド
ニヤ」作戰開始後「フィジー」及「サモア」作戰開始迄ノ間適時
作戰ヲ開始スル如ク豫定セリ

陸軍トシテハ著々右ニ基ク作戰準備ヲ進捗セシメアリシカ其ノ二
ニ述フルカ如ク「ミッドウエー」作戰ハ其ノ目的ヲ達成セスシテ
失敗ニ終ルコトトナリシヲ以テ大本營ハ取り敢ヘス「フィジー」
「サモア」「ニューカレドニヤ」作戰ノ發起ヲ約二箇月延期シテ
其ノ作戰部隊ハ一部ヲ「ビスマーク」諸島方面ニ主力ヲ「ミンダ
ナワ」島及「パラオ」島ニ集結待機セシメ專ラ作戰準備及訓練ヲ
行ハシムルコトトセリ

其ノ四 南方軍ニ對スル指導

一南方軍防衛態勢確立ノ爲ノ大本營ノ處置（出所一南方軍作戰記録）

南方軍ヲ以テスル第一段作戰ハ五月ヲ以テ櫛ネ其ノ目的ヲ達成セル
ヲ以テ大本營ハ其ノ一一ニ述フル情勢判斷ニ基キ六月下旬南方軍爾後
ノ任務ニ關シ新ニ命令スル所アリタリ本措置ニ依リ六月二十七日第
十四軍ヲ大本營直轄トシ同二十九日左ノ要旨ノ命令ヲ下達セリ

1 南方軍總司令官ニ對スル命令ノ要旨

(一) 大本營ハ大東亞戰爭完遂ノ爲南方要域ヲ安定確保シテ自給必勝ノ
態勢ヲ確立スルト共ニ情勢ニ即應スル作戰ヲ準備ス

(二) 南方軍總司令官ハ海軍ト協同シ左記ニ準據シテ南方要域ノ安定

確保ニ任スルト共ニ外郭要地ニ對スル作戰ヲ準備スヘシ

イ 緬甸、舊英領馬來、「スマトラ」、爪哇、舊英領「ボルネオ」

ニ對シテハ之カ防衛ヲ完ウスルト共ニ速カニ軍政ノ滲透ヲ圖

ル

ロ 泰國及印度支那ニ對シテハ之カ防衛ニ協力ス

ハ 緬甸、印度支那及泰國方面ヨリスル對重慶壓迫ヲ續行ス

九三

ニ印度及支那ニ對シ所要ニ應シ航空進攻作戰ヲ實施ス
但シ奧地ニ對スル地上進攻作戰ニ關シテハ別命ニ依ル

ホ所要ニ應シ海軍軍政擔任地域ノ防衛ヲ援助ス

ヘ印度、濠洲及支那等ニ對シ所要ノ宣傳並工作ヲ實施ス

② 第十四軍司令官ニ對スル命令ノ要旨

第十四軍司令官ハ海軍ト協同シ比律賓ノ安定確保ニ任スヘシ之カ

爲特ニ速ニ軍政ノ普選滲透ヲ圖ルモノトス

ニ南方方面防衛態勢確立ノ爲ノ陸海軍ノ分擔（出所「起案擔任者手記」）

前項命令ニ基ク南方要域防衛態勢確立ニ關シ陸海軍間ノ協力、分擔

ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ要旨ノ中央協定ヲ協議セリ本協定ニ於ケル

南方要域トハ舊蘭領「ニユトギニヤ」以西ノ南方占領地域（泰國及

印度支那ヲ含ム）ヲ謂フ

第一防衛方針

(一) 陸海軍協同シ極力艦艇並ニ航空兵力ヲ以テスル進攻作戰ヲ實施シ

敵ノ反撃企圖ヲ破摧スルニ努ム

(二) 速ニ占領地域ノ殘敵ヲ掃蕩シ又所要ニ應シ附近要地ヲ截定スルト
共ニ諸要地ノ防備ヲ強化シ陸海軍緊密ナル協同ノ下ニ敵ノ來襲ニ
對シ之ヲ先制撃破ス

(三) 南方海面及内地南方要域間ノ海上交通ヲ安全ナラシム

第二防衛要領

(四) 進攻作戰要領

1 海軍ハ占領地域一帯ノ海面ノ制壓搜索警戒ニ任スルト共ニ適時
濠洲竝ニ印度洋方面ニ對シ航空進攻作戰及潜水艦戰ヲ實施シ又
敵情ニ應シ艦艇ヲ以テ洋上ニ進撃シ敵艦船ヲ捕捉撃破ス
2 陸軍ハ其ノ航空部隊ヲ以テ主トシテ西南支那及東北印度方面ニ
於ケル敵航空勢力其ノ他要點ノ破摧ニ任シ又所要ニ應シ附近敵
艦船等ノ攻撃ニ協力ス

(五) 防衛ノ分擔

- 1 占領地域ノ海上防衛ハ海軍其ノ他ノ直接防衛ハ「アングマシ」群島「ニコバル」群島「クリスマス」島、小「スンダ」列島及蘭領「ボルネオ」以東ノ舊蘭領印度ハ主トシテ海軍其ノ他ハ主トシテ陸軍之ニ任スルヲ原則トスルモ作戰ノ要求ニ應シ陸海軍協同之ニ任ス
- 2 速ニ陸海軍協同又ハ單獨占領地域ノ殘敵ヲ掃蕩スルト共ニ附近要地ニ對シ所要ニ應シテ敲定作戰ヲ實施シ諸要地ノ防備ヲ強化シ警戒ヲ嚴ニス
- 3 敵潜水艦ノ侵入ヲ阻止スル爲海軍ハ防備上必要トスル海峽等ヲ閉鎖又ハ制扼ス但シ陸軍擔任地域ニ於ケル右閉鎖ノ實施ニ方リテハ現地關係陸軍指揮官ト協議スルモノトス
- 4 南方要域ニ於ケル主要港灣ノ海上防備ハ海軍之ヲ擔任ス
- 5 前二項ノ防備實施ノ爲必要ナル場合ハ海軍ハ現地關係陸軍指揮官ト協議ノ上陸軍主擔任地域中ノ所要ノ地點ニ防備施設ヲ設置

シ且所要ノ人員ヲ配備ス

6 陸軍兵力ヲ以テスル「チモール」島ノ防衛協力ニ關シテハ左記

ニ據ル

(イ) 八月中旬頃迄ハ概ネ現兵力ヲ以テ全島ノ防衛（防空ヲ除ク）

ヲ担任ス

(ロ) 概ネ八月中旬以降ハ歩兵一大隊基幹ノ兵力ヲ以テ防衛ヲ援助

ス

(ハ) 情勢大ナル變化ナケレハ本年末迄ニ全兵力ヲ撤收ス

ヲ敵ノ攻略企圖ニ際シテハ海軍主擔任地域中「アングマン」群島

「ニコバル」群島、小「スンダ」列島方面ニ對シテハ所要ニ應シ

機ヲ失セス陸軍之ヲ増援ス

右ノ期間同方面ノ防衛（防空ヲ除ク）ハ主トシテ陸軍之ニ任ス

(六) 海上交通保護

1 海軍ハ南方海面一帯ニ於テ敵潜水艦ノ侵入ヲ阻止スルト共ニ之

九七

方掃蕩ヲ強化ス

2 南方海面及内地南方要域間ノ海上交通保護ハ海軍ノ擔任トシ陸

軍之ニ協カス

陸軍關係船舶護衛實施ノ細項ニ關シテハ關係陸海軍指揮官間ノ

協定スル所ニ依ル

南方要域ニ於ケル航空基地設定ニ關スル處置（出所一二ニ同シ）

南方要域ニ於ケル航空基地ハ次期作戰ニ即應スルト共ニ南方要域防衛ノ爲必要トスル航空兵力ノ維持、培養ニ遺憾ナカラシムル目的ヲ以テ施設ノ重點ヲ修理補給ニ指向スル方針ノ下ニ六月以降概ネ左ノ要領ニ依リ設定ニ著手セリ

1 航空基地ハ昭南島ヲ核心トシ、佛印、泰、緬甸、馬來、「スマトラ」爪哇及比律賓ニ設定シ航空機ノ修理補給ハ現地ニ於テ實施セシムルヲ目途トシ且現地自給力ノ培養ヲ促進ス

2 軍用航空基地相互連絡及南方共榮圈内相互ノ交通ノ爲所要ノ航空

略ヲ設定シ特ニ左ノ幹線ノ確保ニ努ム

イ臺灣、比島、「ボルネオ」東部、爪哇線

ロ臺灣、比島、「ボルネオ」西部、昭南線

ハ香港、佛領印度支那南部、馬來東部、「スマトラ」爪哇線

ニ香港、佛領印度支那北部、泰、馬來西部、「スマトラ」線

ホ比島、佛領印度支那南部、泰、緬甸線

四兵站交通ニ關スル處置（出所一三ニ同シ）

全軍軍容刷新ニ關聯シ大本營ハ六月末兵站、交通ニ關シ左ノ骨子ヲ以テ南方軍ヲ指導セリ

(イ) 兵站ニ關シ南方軍總司令官ハ軍ノ現地自活ヲ強化シ極力追送補給ノ輕減ニ努ムルモノトス

南方軍ニ對スル補給點ハ通常西貢及昭南トス

(ロ) 南方軍總司令官ハ占領地ノ鐵道ヲ統轄ス、陸上交通ノ復舊整備ハ軍事輸送、資源輸送及緊急ヲ要スル民需輸送ヲ充足スルヲ主眼ト

シ特種地域ヲ除キ鐵道ヲ以テ陸上交通ノ根幹ヲラシム

(ハ) 大本營ハ船舶輸送中一貫輸送ヲ統轄管掌シ船舶輸送司令官之カ實施ニ任ス

南方軍總司令官ハ南方相互(比律賓及別ニ示スモノノ外海軍々政地域ニ至ル輸送ヲ含ム)輸送並局地輸送(比律賓ヲ除ク)ヲ擔任シ之ニ關シ船舶輸送司令部指揮機關ノ長ヲ區處ス

(ニ) 南方軍總司令官ハ占領地ニ於ケル對内外通信機關ヲ統轄シ當該地所管軍司令官之ヲ管理ス

南方軍總司令官ハ各種通信機關逐次統合整備シ軍通信部隊ノ負擔輕減ニ努ムルモノトス

五 占領地軍政ニ關スル處置(出所一南方作戰ニ伴フ占領地行政ノ概要)

占領地ノ擴大ニ伴ヒ六月二日軍政ニ關スル陸海軍ノ擔任區分ニ關シ左ノ如ク追補協定セリ

海軍主擔任區域ニ左ノ地域ヲ增加ス

「アングマン」諸島、「ニコバル」諸島、「クリスマス」島、「ソロモン」諸島、「ナウル」島、「オーシャン」島

其ノ五 浙贛作戰ニ關スル指導（出所ノ記憶）

四月十八日米軍飛行機ハ太平洋上ノ航空母艦ヨリ發進シテ第一回ノ内地空襲ヲ實施シタル後支那基地ニ著陸セリ
大本營ハ中支方面ノ麗水、贛州、玉山等ノ敵飛行場ヲ攻略シテ米軍ノ此ノ種企圖ヲ挫折セシムルニ決シ四月末頃支那派遣軍總司令官ニ成ルヘク速ニ作戰ヲ開始シ主トシテ浙江省方面ノ敵ヲ撃破シテ其ノ主要根據地ヲ覆滅スヘク命令セリ
本作戦ハ浙贛作戰ノ名稱ノ下ニ六月十日之ヲ開始セリ

第二章 南方第二段作戰ニ於ケル統帥（自昭和一七、一七、一七）

第一節 昭和十七年七月ヨリ十月ニ至ル間ノ指導